

治水

発行所

全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区平河町2-7-5(砂防会館内)

編集人 川野正隆

印刷所 株式会社 白橋印刷所

会費 員（定価1部100円）

その他 一般（定価1部150円）

毎月1回15日発行

「河川空間利用実態調査」結果の公表 及び「川の通信簿」の実施について

平成14年7月

国土交通省河川局



2級河川竹野川（兵庫県）に架かるラチス桁橋梁（山陰本線）

○概要

国土交通省等では、平成2年度より散策、スポーツ、水遊び等の河川の利用実態を調査する「河川空間利用実態調査」を行っています。

平成12、13年度に実施しました全国の一級水系全109水系における河川空間利用実態調査の結果を公表します。

又、この調査結果から多くの国民が河川空間を利用していることを踏まえ、平成14年度、平成15年度に「川の通信簿」により、市民が中心となった満足度の評価を実施し、よりよい河川空間の整備・保全を図っていくこととしましたので紹介いたします（4頁以降に記事）。

新たな河川行政の展開について

(Towards a new step of the river management policy)



国土交通省河川局長
鈴木 藤一郎

(Toichiro SUZUKI, Director General of River Bureau, MLIT)

7月16日に河川局長を拝命しました鈴木でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。日ごろより河川行政に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

我が国は、気象、地形、地質等の自然的条件から、台風、豪雨、地震、火山等による災害が発生しやすい国土からなっており、なかでも災害の危険性の高い沖積平野に人口、資産が高密度に集中しています。昨年も、9月の高知県西南部豪雨災害をはじめとして、全国各地で家屋の浸水被害等が発生しましたが、今年に入ってから、既に7月上旬の台風6号に伴う豪雨等により水害・土砂災害が相次いで発生しています。

これまでの治水事業により、着実に風水害による死者数は減少してきておりますが、都市化の進展や、局地的な集中豪雨の発生等によるいわゆる都市型水害が近年頻発しており、その結果、水害被害額は必ずしも減少しておらず、平成12年の東海豪雨災害において、わずか2日余りの豪雨で約6,000億円を超える被害が発生したことも記憶に新しいところでございます。このように顕在化する都市型水害に対処するためには、首都圏外郭放水路等の抜本的な治水対策を推進していくとともに、これまでの開発によって失われた流域の貯留浸透機能の回復や、下水道とも連携した雨水排水対策等、総合的な都市水害対策を講じていくことが重要であります。またその一方、地方部においては、水害や土砂災害に強い安全な地域づくりに加え、水辺や活火山等の日本特有の自然観光資源を活かす基盤整備等、魅力ある地域づくりに貢献していくことが重要であります。

また、被害を最小化するため、ハザードマップの整備・普及・認知の促進や、災害時におけるインターネットやTVを活用したリアルタイムの情報提供等、ハード・ソフト一体となった対策をこれまで以上に推進してまいります。さらに、水害、土砂災害に対するリスク情報等をわかりやすく国民に伝えるとともに、関係機関とも連携して安全な土地利用への誘導といった施策を展開していくことも今後の河川行政の課題の一つであると考えております。

一方、川は平時には人々に安らぎと癒しを与えるとともに、生物多様性を確保するための貴重な空間でもあります。これまでも水質浄化対策や、多自然型川づくり等を通じて、水質や親水性、生態系等に配慮した整備を行ってきたところですが、今後は、閉鎖性水域の水質や河川底質のダイオキシン対策等安全でおいしい水の確保、健全な水循環の確保に向けた総合的取組み、湿地の再生や蛇行河川の復元等失われた自然の再生等について、関係機関やNPO等と連携しながら積極的に取り組んでまいります。

最後に、厳しい批判のある公共事業に対する国民の信頼感を醸成するため、徹底した事業評価の実施等により、国民へのアカウンタビリティを果たすとともに、河川整備計画策定時等、計画段階から地域の意見を積極的に取り入れるほか、管理段階においても、地域住民やNPOとの連携を推進するなど、公共事業の改革にも積極的に取組みながら、安全で美しい国土づくりに貢献していきたいと考えております。

今後とも皆様方の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

就 任 の 挨拶



国土交通省河川局治水課長
望 月 常 好

7月16日付で河川局治水課長に就任いたしました望月でございます。どうぞよろしくお願いたします。

建設省時代の治水課と開発課の再編により新しい治水課が誕生して1年半が経過しました。河川とダムという河川局事業のうちの太い幹が一つの課に委ねられ、60名を超える大所帯となったわけですが、河川とダムの効用を流域全体の視点から有機的に考えられるようになったこと、各地方整備局との適切な役割分担によって地域の独自性を施策に十分反映できるようになったことなど、再編の成果は着実に挙がっております。

ここ数年、公共事業を取り巻く環境は厳しさを増しております。多くの国民の方々や各界から様々なご意見が寄せられておりますが、中には、公共事業に対する非常に厳しいご意見も少なからず見受けられます。我々が日頃から持っている問題意識や、それらの問題に対し真摯に考え、どう対処しているかを国民の皆様方に説明して理解していただく、いわゆるアカウンタビリティについての取り組みを、今後もねばり強く続けていくことが必要です。

また、各省各局があらゆる行政事務を分担して管理するのはもちろんのことですが、我々は河川の中に限定してものごとを考えていくのではなく、日本経済の活性化をはじめ、自然環境の保全・再生、まちづくり、学校教育、建設リサイクル、電子入札、コスト縮減など、様々な問題を明らかにしたうえで、河川行政の役割を考えていかなければなりません。

現代は権利関係が複雑化し、私たちひとりひとりの暮らしがどのように成り立っているのかという根本の部分がわかりにくくなっております。治水事業は、洪水、渇水被害を防止・軽減し、国民の生命、財産を守るという国家の最も重要かつ基本的な責務のひとつを担っております。治水事業が国民の社会経済活動に果たしている役割を、今後とも広く国民の皆様方に対して説明していくとともに、事業の実施にあたってはその内容をより一層吟味し、ハード・ソフト両面から効率的に事業が実施されるよう努めてまいりたいと考えております。

皆様方の一層のご支援、ご協力をよろしくお願申し上げます。

平成12年度河川空間利用実態調査結果要旨

• 全国109の一級水系の年間河川空間利用者総数の推計は、1億8千万人

全国109の一級水系直轄管理区間（ダム区間を除く、約8.6千km）の年間河川空間利用者総数の推計は約1億8千万人であり、直轄管理区間1kmあたりでは約2万人でした。

前回の調査を行った平成9年度と比較すると、若干減少していますが、ほぼ横ばい傾向という結果となりました。

• 水系別の年間河川空間利用者総数の第1位は、荒川（関東）

年間河川空間利用者総数の最も多い水系は、前回調査（平成9年度実施）の利根川（関東）に替わり荒川（関東）でした。以下、2位・淀川（近

畿）、3位・利根川（関東）、4位・多摩川（関東）、5位・木曾川（中部）の順です。

また、直轄管理区間延長あたりの年間河川空間利用者数が最も多い水系は多摩川（関東）で、以下、2位・荒川（関東）、3位・相模川（関東）、4位・矢作川（中部）、5位・淀川（近畿）の順です。

• 利用形態別の年間河川空間利用者数は、散策等が55%で最多

利用形態別の年間河川空間利用者数の内訳では、散策等が55%と約半数を占め、次いでスポーツが29%であり、釣りとは水遊びはそれぞれ10%に満たない状況です。

「河川空間利用実態調査」結果の公表及び「川の通信簿」の実施について

平成9年度調査と比較して、スポーツ・散策等の占める割合が若干増加、釣り・水遊びの割合が若干減少していますが、全体的な傾向は変わっていません。

• 良好な水辺環境を指標する夏の水遊び利用者数（1kmあたり）1位は、仁淀川

川が本来有している良好な水辺環境を指標する夏の水遊びの利用者数（直轄管理区間延長1kmあたり）が最も多い河川は、仁淀川（四国）となりました。

以下、2位・相模川（関東）、3位・物部川（四国）、4位・大分川（九州）、5位・櫛田川（中部）の順です。

• 全国の河川空間利用者の満足度は、約60%

全国約800地点で約8,000人の河川空間利用者を対象に行ったアンケート調査結果をみると、「今

の水辺をどのように思われますか」という河川に対する満足度（5段階評価、満足している、まあ満足している、どちらともいえない、やや不満である、不満である）に関する質問に対して、“満足している”“まあ満足している”と約60%の人が答えています。

• 今後水辺で最もやりたいことは、散策・休息等

利用者アンケート調査結果をみると、「今後水辺でどのようなことをやりたいですか」という質問に対して、最も多かった利用目的としては、“散策・休息、その他（写真撮影、楽器演奏など）”でした。上位5位を占める項目は前回調査（平成9年度）と同じで、以下、2位・“ピクニック、キャンプ”、3位・“釣り・魚とり”、4位・“スポーツ（軽い運動を含む）”、5位・“水遊び”の順です。

平成12年度河川空間利用実態調査結果の概要

1. 調査の概要

本調査は、河川空間の利用状況の実態を把握し良好な河川空間の保全・整備に資することを目的に実施するもので、河川空間利用者数調査と利用者アンケート調査で構成されています。

調査対象は、全国109の一級水系直轄管理区間

(ダム区間を除く)で、河川空間利用者数調査は、四季を通じた休日5日、平日2日の合計7日の現地調査を実施し、水系毎の年間利用者数の推定を行うものです。また、利用者アンケート調査は、夏季の休日調査の際に実施します。

現在、概ね3年に1回、調査を実施しています。

表1 調査実施日

	休 日	平 日
春 季	平成12年4月29日(土)(みどりの日) 平成12年5月5日(金)(こどもの日)	平成12年5月15日(月)
夏 季	平成12年7月30日(日)	平成12年7月31日(月)
秋 季	平成12年11月3日(金)(文化の日)	—————
冬 季	平成13年1月8日(月)(成人の日)	—————

※ 一部の水系において、天候等の事情により調査実施日を若干ずらしています。

2. 調査結果の概要

(1) 年間の河川空間利用者総数

全国109の一級水系の年間河川空間利用者総数の推計は、約1億8千万人

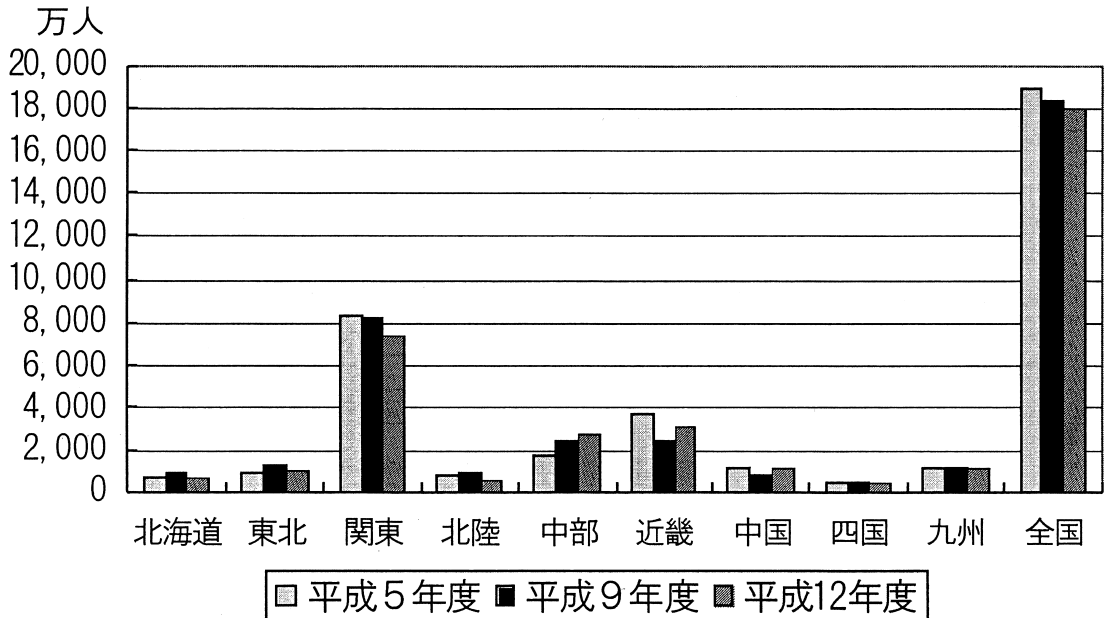
全国109の一級水系直轄管理区間(ダム区間を除く、約8.6千km)の年間河川空間利用者総数の

推計は約1億8千万人であり、直轄管理区間1kmあたりでは約2万人でした。

前回の調査を行った平成9年度と比較すると、若干減少していますが、ほぼ横ばい傾向という結果となりました。

表2 年間河川空間利用者総数(万人)

地 方 名	平成5年度 年間利用者総数	平成9年度 年間利用者総数	平成12年度 年間利用者総数
北 海 道	635	848	614
東 北	928	1,200	994
関 東	8,347	8,243	7,356
北 陸	777	914	608
中 部	1,728	2,353	2,799
近 畿	3,699	2,392	3,080
中 国	1,118	828	1,079
四 国	459	473	386
九 州	1,171	1,094	1,103
全 国	18,863	18,346	18,018



地方別年間河川空間利用者総数

(2) 水系別の年間河川空間利用者総数ランキング
水系別の年間河川空間利用者総数の第1位は、
荒川(関東)

年間河川空間利用者総数の最も多い水系は、前回調査(平成9年度実施)の利根川(関東)に替わり荒川(関東)でした。以下、2位・淀川、3

位・利根川、4位・多摩川、5位・木曽川の順です。

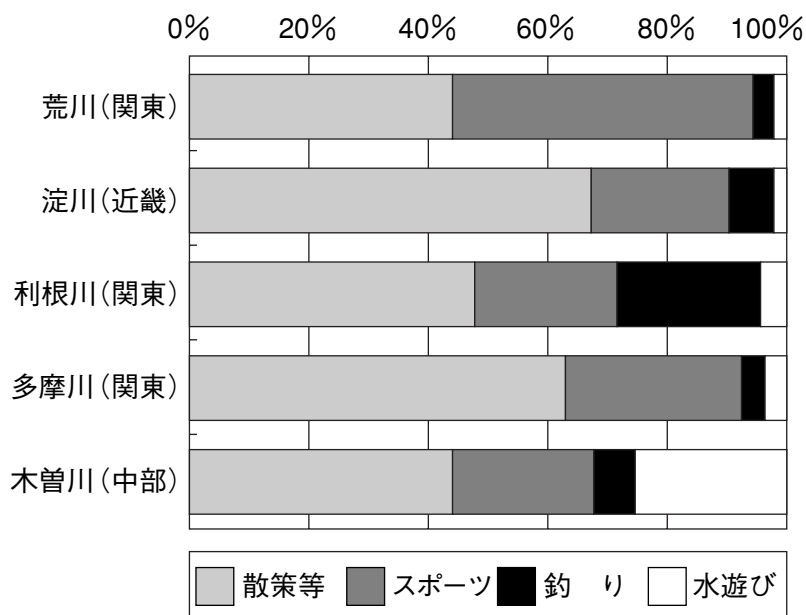
また、直轄管理区間延長あたりの年間河川空間利用者総数が最も多い水系は多摩川で、以下、2位・荒川(関東)、3位・相模川、4位・矢作川、5位・淀川の順です。

表3 水系別の年間利用者総数ランキング(万人)

順位	平成5年度調査	平成9年度調査	平成12年度調査
1位	荒川(関東) : 3,366	利根川(関東) : 2,784	荒川(関東) : 2,532
2位	淀川(近畿) : 3,089	荒川(関東) : 2,588	淀川(近畿) : 2,409
3位	利根川(関東) : 2,927	多摩川(関東) : 2,090	利根川(関東) : 2,165
4位	多摩川(関東) : 1,384	淀川(近畿) : 1,757	多摩川(関東) : 1,707
5位	木曽川(中部) : 673	木曽川(中部) : 811	木曽川(中部) : 888

表4 直轄管理区間延長あたりの水系別の年間利用者総数ランキング(万人/km)

順位	平成5年度調査	平成9年度調査	平成12年度調査
1位	荒川(関東) : 23.3	多摩川(関東) : 26.6	多摩川(関東) : 21.7
2位	多摩川(関東) : 17.6	荒川(関東) : 17.9	荒川(関東) : 17.5
3位	淀川(近畿) : 13.3	鶴見川(関東) : 12.8	相模川(関東) : 17.1
4位	相模川(関東) : 10.9	相模川(関東) : 10.9	矢作川(中部) : 11.0
5位	鶴見川(関東) : 8.8	淀川(近畿) : 7.5	淀川(近畿) : 10.3



年間利用者総数ベスト5水系の利用形態別内訳 (平成12年度)

水防月間をかえりみて

国土交通省河川局防災課

本格的な出水期を前にした5月(北海道は6月)の水防月間が終了しました。

この月間は、水害の未然防止又は軽減に資することを目的として、国民全般に水防に関する基本的考え方の普及を図り、水防の意義及び重要性についてご理解を深めていただくよう昭和62年から毎年実施しているものです。

今年も国土交通省、都道府県、水防管理団体(市町村)の主催で、関係行政機関等の後援、全国水防管理団体連合会、全国治水期成同盟会連合会等関係団体の協賛を得て「洪水から守ろうみんなの地域」をテーマに、各種広報活動、水防演習、河川管理施設等の点検整備、水防に関する展示会等各種イベントが全国各地で実施されました。

この月間の主要行事の一つである水防演習は、利根川等9河川において地元自治体や関係団体等

多数の方々の参加のもと開催されました。

なかでも、今年で第51回を数える利根川水系連合水防演習は、佐藤国土交通副大臣をはじめ、埼玉県知事や各機関の関係者、地元水防団や企業、住民等を含む約16,000名が参集し、堤防が決壊する恐れが生じたとの想定で、各種水防工法を実施するとともに、避難訓練や警察、消防、自衛隊、日本赤十字社による救助・救護訓練を実施するなど本番さながらの訓練が繰り広げられました。この他全国各地の水防演習においても、各地域の特色を生かした総合的な演習が実施され、十分な成果を収めることができました。

国土交通省といたしましては、安全で安心できる地域社会を実現するため、治水施設の整備を積極的に推進しておりますが、ひとたび洪水が起きた場合、その被害の防止・軽減には水防活動が極

めて重要です。

今後とも、今回の水防月間での成果を踏まえて、より効果的な水防活動が実施されるよう水防体制

の拡充に努めるとともに国民の水防意識の高揚を図り、広く協力を求めていきたいと考えます。

平成14年度水防演習実施一覧

演 習 名	実 施 日	実 施 場 所	参 加 人 員
野洲川水防演習	5月11日(土)	滋賀県野洲町	約 1,800人
六角川・嘉瀬川・松浦川水防演習	5月12日(日)	佐賀県牛津町	約 1,800人
利根川水系連合水防演習	5月18日(土)	埼玉県羽生市	約 16,000人
木曾三川連合水防演習及び三重県総合防災訓練	5月19日(日)	三重県多度町	約 1,200人
信濃川・魚野川水防演習	5月25日(土)	新潟県小千谷市	約 5,000人
重信川水防演習	5月26日(日)	愛媛県松山市	約 2,480人
北上川上流水防演習	6月1日(土)	岩手県一関市	約 7,200人
高梁川水防演習	6月2日(日)	岡山県倉敷市	約 2,890人
石狩川水防公開演習	6月15日(土)	北海道長沼町	約 4,100人



開会式で答礼をする佐藤副大臣
(利根川水系連合水防演習)



シート張り工を実施する水防団員
(利根川水系連合水防演習)



木流し工を実施する水防団員(北上川上流水防演習)



水防マット工を実施する水防団員(野洲川水防演習)

わがまらの川



釜段工を実施する水防団員
(六角川・嘉瀬川・松浦川水防演習)

「竹野川くらしに生きる川づくり」— 地域連携・情報共有

住民が主人公の川づくり—「つくる」「まもる」「そだてる」をキーワードに!!

兵庫県竹野町

建設課長 福井與司光

兵庫県の最北端に位置し、日本海に面した一帯は山陰海岸国立公園に指定され、風光明媚なリアス式海岸、白砂青松の竹野浜は、関西の海水浴場のメッカで、そこに注ぐ竹野川は流域面積86.5km²、流路延長39kmで兵庫県管理の2級河川です。

行政区域102.8km²の内83%が竹野川流域と重なり、かつ竹野川にかかわる行政体が竹野町一町のみで「一町一流域」「一町一川」の全国的にも希な川です。

そんな竹野川の現状・取り組みを紹介致します。

上流域・中流域・下流域と変化に富んだ貴重な自然に恵まれた、おらが町の竹野川、その水辺に生育する植物は200種以上、魚類は58種（内55種が天然分布）又22種の両生類、4種のカメそしてその川すじに生息する野鳥150種類ほどが記録され、中でも溪流の貴公子とも言われている「ヤマセミ」は町の鳥として指定し、現在も本町中流域の林地内に5～6カップルがラブラブで楽しく生活しています。

こんなすばらしい竹野川を管理者の兵庫県そして竹野町・地域住民が一体となり「つくる」「まもる」「そだてる」をキーワードに情報共有（より良く知ろう、わがふるさと）・地域連携（自らの手で共に行う川づくり、まちづくり）を図っています。

平成5年から「ふるさと・山・海・水とくらし」のフォーラムを皮切りに、竹野川づくりに伴う町民フォーラムを重ねてまいりました。

その中で特に、兵庫県河川課・豊岡土木事務所のご協力により、竹野川流域総合川づくりビジョンの策定、そして平成11年度からは兵庫県のコミュニケーション型県土モデル事業として、竹野川の整備・改善・保全を実施して頂いています。

現在は、このようなすばらしい竹野川をいつまでも後世に残すべく、アドプト・プログラム制度「マイリバー竹野」を導入し、兵庫県・竹野町・地域住民が一体となり、おらが町の竹野川を28団体952人の「マイリバー竹野」会員でオリジナルキャップ着帽の上、可愛がっています。

いきいき県土づくりプログラム

竹野川清掃ボランティア



河川美化の新しい取り組み

マイリバー竹野

竹野川は全国でもまれな「一町一川」の川です。

この恵み多い竹野川をいつまでも美しく「まもり・そだてる」新しい取り組みが始まります。

それが竹野川アドプトプログラム「マイリバー竹野」です。

つまり竹野川の一定区間とアドプトをして、受け持った区間を責任を持って美しくするのです。

私たちの手で竹野川を美しく!!

「マイリバー竹野」

さあ、いっしょに始めましょう。



アドプトプログラムとは？

アドプトとは「養子縁組」のこと

アドプトプログラムでは、竹野川流域の一定区間と参加者（団体）を養子縁組（アドプト）します。

美化清掃ボランティア

里親となった団体は、養子となった河川流域の清掃・美化活動を定期的に行います。

看板が立ちます

河川流域には、里親である団体の名前を表示した看板が立ちます。

対象となる川

竹野川と以下の支川

- ・ 芦谷川 ・ 小丸川 ・ 大谷川
- ・ 三椒川 ・ 須野谷川 ・ 桑野本川

上記のうち、県管理河川区域部分

制度の仕組み

参加者は

1. 竹野川の一定区間とアドプト（養子縁組）するための合意書を兵庫県・竹野町と締結します。
2. 合意書は2年毎に更新します。
3. アドプトした区間で年間3回以上の活動を行います（草刈り、美化清掃など）。
4. 年間の活動計画や活動報告など簡単な報告書を提出します。

兵庫県は

1. アドプトした区間内に活動団体の名前等を表示します。
2. 活動中の事故などに備えて保険に加入します。
3. 活動の積極的な広報に努めます。

参加の申し込み

マイリバー竹野に興味をもたれた方、参加してみたい団体の方は、下記までご連絡ください。

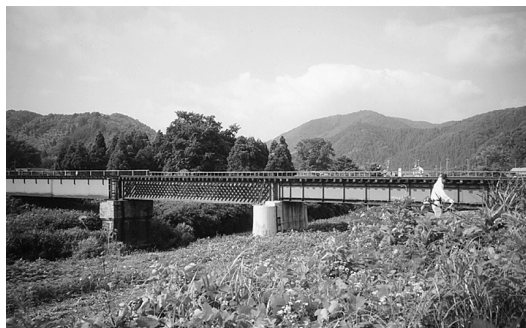
〒668-0025
 豊岡市幸町7-11
 但馬県民局 県土整備部
 豊岡土木事務所 Tel. 0796-23-1001(代表)
 管理課 Tel. 0796-26-3742
 工務第2課 Tel. 0796-26-3751

〒669-6292
 城崎郡竹野町竹野 1585-1
 竹野町役場建設課 Tel. 0796-23-1111(代表)

マイリバー竹野は、河川敷の清掃を排他的に独占するものではありません。

マイリバー竹野の実施に際しては、ゴミ袋の提供、表示板の設置などについて竹野町をはじめ関係機関のご協力をいただいています。





ラチス桁橋梁を背景に
アドプト「マイリバー竹野」会員による草刈り作業

— 表紙写真 —

竹野町近代土木遺産「竹野川橋梁」(山陰本線)

竹野川橋梁の概要

- JR 西日本株式会社 山陰本線(京都起点165K305M地点) 城崎～竹野間
- 竹野川橋りょう 兵庫県城崎郡竹野町須谷地内 2級河川竹野川
- 橋長 L=101.21M(5スパン) プレートガーダー4連 ラチス桁(単線式上路網格桁)
- 1911年(明治44年10月25日) 山陰東線福知山・和田山間及び城崎・香住間開通
- 開通当時の上記橋梁はプレートガーダー方式で明治35年作

時代背景(大正7年大水害)

- 1918年(大正7年)大水害 竹野川流域にて死亡者17人
決壊堤防29,438M 決壊道路10,243M 浸水家屋844
流出田畑198町 浸水田227町
- 上記災害に伴い竹野方2径間(2スパン)が流出
- 1919年(大正8年)現在のラチス桁(単線式上路網格桁)(網格鋸桁)

(参考文献)

- 「全国で3つしかないラチス桁」財団法人リバーフロント整備センター
発行2002年(平成14年)3月1日 水の文化情報誌3月号 フロント土木遺産再発見で紹介
- 徳佐川橋梁(山口県)・田君川橋梁(兵庫県浜坂町)・竹野川橋梁(竹野町)の3カ所が紹介される。
- 竹野川橋梁のラチス桁のスパン19.15M(他の2橋も1連)で、橋長101.21M5連であるので、一番見栄えもするし、ロケーションもいい。
(上記月刊誌：日本大学理工学部社会交通工学科教授 伊藤 孝先生)
- (土木史研究第15号1995年6月自由投稿論文) 西野保行 小西純一 中川浩一から
我が国の鉄製鉄道橋梁はプレートガーダー及びトラス橋梁が主である。この中において、プレートガーダーの代用としてラチス桁が誕生。その導入の経緯は、当時の我が国の製鉄業は大型物の製作設備が不十分で、又第一次世界大戦の影響を受けて、大形鋼板の輸入が非常に困難になった為、やむを得ず採用されたタイプ(格部材はリベットで結合され、当時は人件費が安い為、可能な橋)